

漢字文化圏の日本語学科の大学生が考える
よい日本語の授業・試験および学習者の姿

Good curriculums, assessment and learners by Japanese Department College
Students in East Asian cultural sphere

王 敏東/吳 致秀

台湾科技大学応用外国語学科/台中科技大学応用日本語学科

要旨

本稿は漢字文化圏の日本語学科の大学生が考えるよい日本語の授業、試験および学習者について調べたものである。具体的には中国大陸（6校 197人）、香港（1校 191人）に在籍する学生を対象に、授業について42問、試験について36問、学習者について35問のアンケート調査を行い、SPSSを利用して結果を検討した。また、先行文献における台湾の学生（8校 217人）を対象とした調査結果とも比較した。各国・各地域の学生が授業、試験、学習者のそれぞれに関して重要視している項目の順位を明らかにしたうえで、台湾・中国大陸・香港の学生が同程度に重要視している（順位の差が5つ以内である）項目も究明した。

本研究の調査結果が、漢字文化圏の大学の日本語学科における日本語教育の参考になれば幸いである。

キーワード：

香港、中国大陸、台湾、統計

漢字文化圏の日本語学科の大学生が考える よい日本語の授業・試験および学習者の姿

王 敏東/吳 致秀

台湾科技大学応用外国語学科/台中科技大学応用日本語学科

1. はじめに

従来、いわゆる漢字文化圏が同一視される傾向がある。しかし、台湾、中国大陸（以下「大陸」または「陸」とも記す）、香港は、政治体制をはじめとし、使用される漢字や教育制度も違う。よって、この3ヶ所の大学日本語学科の大学生が考えるよい日本語の授業・試験および学習者の姿がそれぞれどのようなものであり、共通する部分や異なっているところは何か、という点の究明は意義がある。

授業は授業に参加している人（教師と学習者）、教材、教授法、そして環境によって成り立っている¹。また、学習効果の検証に用いられる代表的なものとして試験があげられる。日本語教育において、授業、試験、学習者のそれぞれについての論考は多々見られるが、同じ学習者を対象にしてこれらに関する調査を同時に行った考察は見当たらなかったという理由で、王（2013）は日本語を第二外国語として履修している台湾の6つの大学の学生190名を対象に、望ましい日本語の授業（42問）、試験（36問）、学習者（35問）に関する調査を行い、SPSSを利用して分析した。王・吳（2014）は王（2013）を踏まえて、台湾にある8校217の日本語学科の大学生を対象として同じアンケート調査を行った。そして、日本語学科の学生と非日本語学科の学生各々が求める「よい日本語の試験」の一致度が7割近くに達するのに対して、「よい日本語の学習者」の一致度は5割未満であることなどが分かった。

本稿は、王（2013）、王・吳（2014）で用いられたアンケートを、漢字文化圏である中国大陸（6校）、香港（1校）の日本語を専攻している学生を対象に実施し、さらに王・吳（2014）の調査結果とあわせて、各国・各地域の学生が考えるよい日本語の授業・試験および学習者について検討するものである。なお、よい教師に関する論考は、王（2012）も含め数多くあるため、今回は紙幅などの制限も考えて、教師に関する検討は割愛した。

2. 先行研究

台湾人、中国大陸人、香港人を含む外国人学習者が考える「よい日本語の授業」を探求するものとして、天満（2010）、中川（2010 a、2010 b）、中川・天満・上野山（2010）、中川・天満・上野山・安立（2011）があり、3ヶ所の学習者の意見における異同が見出されている。

¹ 縫部（1994：9）。

また、台湾の日本語学科の学生を対象に「よい日本語の授業」、「よい日本語の試験」、「よい日本語の学習者」を同時に調査したものとして、王・呉（2014）がある。

本稿は前記王・呉（2014）の調査結果とも比較するため、王・呉（2014）と同じアンケートを用いて、中国大陸、香港の日本語学科の学生を対象として調査を行うことにした。

3. 本研究における調査

前述したように、本稿は先行文献と比較するため、王・呉（2014）に用いられたアンケートを採用する。アンケートは、よい日本語の授業（42問）、よい日本語の試験（36問）、よい日本語の学習者（35問）という3つの主題についてリッカート尺度（「非常によくあてはまる」（5）から「全くあてはまらない」（1）という5段階評価）を用いて評定してもらうものである。

以下の論全体は日本語で進めるが、実際に使ったアンケートは中国語のもので、台湾と香港では繁体字のものであったが、中国大陸では簡体字に変えたものを用いた。調査時間は2013年5月下旬～11月である。調査を実施したのは作者本人、もしくは作者が依頼した大学に、勤務している教師²である。

3.1 調査に用いたアンケート

王・呉（2014）で用いられたアンケートの信頼性は全体的に非常に高い数値（よい日本語の授業、よい日本語の試験、よい日本語の学習者という3つの主題のいずれも.90を越えた）が示されている。今回、王・呉（2014）のアンケートを違う対象に用いて調査し、新たに信頼性を確認したところ、同じくいずれも.90を越える高値で、高い信頼性を示している（表1）。

表1 本調査における信頼性

	よい日本語の授業	よい日本語の試験	よい日本語の学習者
大陸	.953	.952	.950
香港	.904	.911	.918

3・2. 調査を受けた学生

調査の対象は中国大陸（6校）、香港（1校）の日本語を専攻している学生である。回答者の内訳は表2のようにになっている。また、見やすくするため、王・呉（2014）もあわせて提示する。

² 助手を含む。

表2 アンケート回答者の内訳

		台湾 (n=217)		中国大陸 (n=197)		香港 (n=191)	
		数	%	数	%	数	%
性別	男	63	29.0	38	19.3	50	26.3
	女	152	70.0	159	80.7	140	73.7
	無記入	2	0.9	0	0	0	0
年齢	20歳未満	19	8.8	46	23.4	118	62.1
	20～29歳	191	88.0	150	76.1	72	27.9
	30～歳	3	1.4	1	0.5	0	0
	無記入	4	1.8	0	0	0	0
母語（複数回答可）	中国語	210	96.8	184	93.4	19	10
	台湾語	95	43.8	0	0	2	1.1
	客家語	9	4.1	0	0	0	0
	英語	0	0	0	0	0	0
	その他	4	1.8	13	6.6	182	95.8
学年	1年生	4	1.8	36	18.3	78	42.2
	2年生	76	35.0	55	27.9	107	57.8
	3年生	86	39.6	79	40.1	0	0
	4年生	48	22.1	27	13.7	0	0
	5年生	1	0.5	0	0	0	0
	無記入	2	0.9	0	0	6	3.14
日本語を学習した期間	1年未満	3	1.4	34	17.3	66	37.5
	1～2年	29	13.4	48	24.4	73	41.5
	2～3年	54	24.9	82	41.6	13	7.4
	3～4年	53	24.4	19	9.6	7	4.0
	4年以上	71	32.7	13	6.6	17	9.7
	無記入	7	3.2	1	0.5	0	0
日本滞在期間	1年未満	88	40.6	17	8.6	114	64.8
	1年以上	4	1.8	7	3.6	3	1.7
	なし	104	47.9	172	87.3	59	33.5
	無記入	21	9.7	1	0	0	0

漢字文化圏の日本語学科の大学生が考える
よい日本語の授業・試験および学習者の姿

日本語がどの程度好きか	ぜんぜん	2	0.9	3	1.5	0	0
	あまり	4	1.8	15	7.6	0	0
	普通	57	26.3	61	31.0	8	4.2
	ある程度	96	44.2	81	41.1	85	45.0
	とても	53	24.4	37	18.8	96	50.8
	無記入	5	2.3	0	0	0	0
日本語の学習にどの程度力を入れているか	ぜんぜん	3	1.4	7	3.6	2	1.1
	あまり	6	2.8	20	10.2	3	1.6
	普通	112	51.6	71	36.0	28	14.8
	ある程度	71	32.7	82	41.6	119	63.0
	とても	20	9.2	17	8.6	37	19.6
	無記入	5	2.3	0	0	0	0
日本語の程度（自己評価）	非常に下手	9	4.1	17	8.6	25	13.5
	下手	38	17.5	49	24.9	46	24.9
	普通	125	57.6	99	50.3	97	52.4
	上手な方	38	17.5	31	15.7	19	9.2
	非常に上手	2	0.9	1	0.5	0	0
	無記入	5	2.3	0	0	0	0

今回調査を受けた2ヶ所の大学生の男女比は中国大陸で2対8、香港では2.6対7.4、となっている。王・呉（2014）で示されている台湾の資料と照らし合わせてみれば、男性の比率が最も高いのは台湾で（29.0%）女性の比率最も高いのは中国大陸である（80.7%）、ということが分かった。また、日本に滞在したことがないという学生の割合は中国大陸の学生が最も多かった。日本語を好きだと思ふ程度に関して、好きでない（「ぜんぜん」および「あまり」）と答えた香港の学生は1人もいない。日本語の学習にどの程度力を入れているかについて、「ある程度」もしくは「とても」と記入した学生が香港では他の2ヶ所より多いのも、それと関係があるかもしれない。しかし、日本語能力を自己評価させると、「非常に下手」だと思ふ香港人が一番多いうえ、「非常に上手」または「上手な方」だと思ふ香港人の比率は他の2ヶ所に及ばない。

4. 調査結果

この節ではまず「大学生が考えるよい日本語の授業」、「大学生が考えるよい日本語の試験」、「大学生が考えるよい日本語の学習者」という3小節に分け、台湾、中国大陸、香港それぞれの学生が重要視する項目の順位を表で示す。また、「台湾⇄大陸の比較」、「台湾⇄香港の比較」、「大陸⇄香港の比較」の他、「台湾・大陸・香港3ヶ所の比較」もする。

4.1 大学生が考えるよい日本語の授業

台湾・大陸・香港という3ヶ所の学生が考えるよい項目の順番を示すと表3のようになる。台湾の学生が大陸の学生より重要視しているもの（台湾の学生での順位が大陸の学生の順位より5つ以上上のもの）³は□、大陸の学生が台湾の学生より重要視しているものはゴシック体、台湾の学生が香港の学生より重要視しているものは斜め、香港の学生が台湾の学生より重要視しているものは網掛け、大陸の学生が香港の学生より重要視しているものは下線、香港の学生が大陸の学生より重要視しているものは二重下線、で示す。以下同様。

表3 大学生が日本語の授業で重要視する項目

(番号).質問	順位		
	台湾 (n=217)	中国大陸 (n=197)	香港 (n=190)
(1).教材がきれい（カラーで、字の大きさが適当）である	25	24	26
(2).教材が整備されている（内容が豊富かつ系統的である。 たとえば、アクセントや中国語訳が付いている）	10	11	10
(3).説明が上手な教師	1	3	1
(4).テキスト以外の情報の補充（たとえば日本経験、時事、 日本文化などの紹介）	3	<u>1</u>	14
(5).“発音がきれいである”など、教師が専門的な知識・能力 を備えている	2	1	2
(6).教師が、学習者の学習意欲が湧くようにしたり、達成感 を高めたりしてくれる	7	<u>7</u>	19
(7).教師が、正式な日本語と生活に用いられている日本語の 両方を教えてくれる	□4	10	7

³ 以下同様。

漢字文化圏の日本語学科の大学生が考える
よい日本語の授業・試験および学習者の姿

(8).授業が適切な進捗と効率で進められる	<u>15</u>	20	<u>12</u>
(9).教室内の雰囲気がよく、面白くて固くない	7	5	8
(10).教師の学生とのインターアクション	15	<u>11</u>	20
(11).聞くこと、話すこと、読むこと、書くことという4技能の全てに配慮がなされている	12	8	<u>3</u>
(12).見学など実践的な教室外の活動が必要	36	28	<u>30</u>
(13).よいクラスメート	27	27	<u>18</u>
(14).授業時間が充分ある	<u>23</u>	34	<u>9</u>
(15).学習者の態度が真面目で積極的である	<u>6</u>	14	<u>6</u>
(16).教室の設備が整っている	<u>24</u>	31	32
(17).明確な授業のルール、妥当なテストと合理的な採点	<u>19</u>	37	34
(18).多角的な練習が設けられており、すべての学習者に表現や練習の機会が与えられる	<u>12</u>	<u>17</u>	24
(19).授業内容が実用的で豊富である	<u>4</u>	11	13
(20).内容が簡単(易しい内容から導入し、学習者がすぐ身に付けられるように工夫する)	32	32	<u>22</u>
(21).人数がコントロールされている(少人数のクラスがよい)	20	<u>20</u>	29
(22).学習者の学習の様子をうまく把握できている(たとえば学習者の資質に合わせて教授される)	11	14	16
(23).賞品や奨学金などの奨励制度が設けられている	40	40	37
(24).日本の歌、ゲーム、漫画、雑誌、映画・ドラマなどいわゆるサブカルチャーの素材を導入または補助として利用している	30	20	<u>24</u>
(25).日本留学歴がある教師(きれいな発音が保証されると同時に日本経験を教えることが可能)	37	16	<u>30</u>
(26).教師が親切で忍耐力がある	7	6	4
(27).面白い活動(ゲームや歌)	39	39	35
(28).プレッシャーがない	41	41	38
(29).学習者に学習内容を強く印象付けるための、十分な練習と復習	18	17	<u>10</u>
(30).日本人と触れ合う機会が設けられている	12	4	<u>5</u>

(31).日本へ行って勉強するための情報（たとえば交換留学生や日本留学の機会に関するもの）を提供してくれる	22	<u>8</u>	<u>15</u>
(32).学習者の程度にあう補助教材を紹介してくれる	17	<u>17</u>	32
(33).日本人の教師と中国語が母語の教師がコンビで教えること	28	<u>32</u>	40
(34).中国語と日本語との比較をしてくれる	30	<u>29</u>	41
(35).日本語学習のウェブサイトなどにより、教室外でコミュニケーションをする機会が設けられている	34	<u>34</u>	39
(36).学習者の専攻に関係の深い日本語を教えてくれる	26	<u>25</u>	36
(37).日本語能力試験に合格するために手助けをしてくれる	38	36	<u>28</u>
(38).大部分の時間を日本語で教授する	35	25	<u>17</u>
(39).適切な宿題を出してくれる	<u>33</u>	37	<u>20</u>
(40).目標が明確でコースデザインが整備されている	20	23	23
(41).望ましい時間帯に授業が行なわれる	28	29	26
(42).落とされることがない	42	42	42

4.1.1 台湾⇄大陸の比較

台湾の学生が大陸の学生より重要視しているもの（台湾の学生での順位が大陸の学生の順位より5つ以上上のもの）は(7)、(8)、(14)、(15)、(16)、(17)、(18)、(19)、(39)という9項目である。

台湾人学生がより重要視する項目は教師、テスト、練習、学習者などにかかわるものであることが観察された。

大陸の学生が台湾の学生より重要視しているのは(12)、(24)、(25)、(30)、(31)、(38)という6項目である。

大陸の学生の積極性が感じられ、とくに、実際の本物の日本へのこだわりが強いように思われる。これは、中国大陸は台湾などのように自由に日本へ行ったり、インターネットなどを通して日本の情報を手にしたりすることができないからであろう。

残りの27問については台湾と大陸の間であまり差がない（順位差が0～4以内）項目で、全42問の64.3%を占めている。

4.1.2 台湾⇄香港の比較

台湾の学生が香港の学生より重要視しているのは(4)、(6)、(10)、(16)、(17)、(18)、(19)、(21)、(22)、(32)、(33)、(34)、(35)、(36)という14項目で、数としてはかなり多い。

一方、香港の学生が台湾の学生より重要視しているのは(11)、(12)、(13)、(14)、(20)、(24)、(25)、(29)、(30)、(31)、(38)、(39)という 12 項目で、これも少ない数ではない。

残りの 16 問は台湾と香港の間であり差がない項目で、全 42 問の 38.1%しか占めていない。よい日本語の授業に対する見解については台湾と香港における共通性が低いと言えよう。

4.1.3 大陸⇔香港の比較

大陸の学生が香港の学生より重要視しているのは(4)、(6)、(10)、(18)、(21)、(25)、(31)、(32)、(33)、(34)、(35)、(36)という 12 項目である。

一方、香港の学生が大陸の学生より重要視しているのは(8)、(11)、(13)、(14)、(15)、(20)、(29)、(37)、(38)、(39)という 10 項目で、日本語を心から好きだという気持ちの強さがうかがえる。

残りの 20 問は大陸と香港の間であり差がない項目で、全 42 問の 47.6%を占めている。つまり、大陸の学生と香港の学生が「よい日本語の授業」に求める項目の約半数は共通していると考えられる。

4.1.4 台湾・大陸・香港という 3ヶ所の比較

前の 3 節（4・1・1～4・1・3）で 2ヶ所ずつ検討した結果を表にすると、以下の表 4 となる。

表 4 2ヶ所ごとの重要視する項目の比較（よい授業）

台湾で大陸より重要視されている項目	(7)、(8)、(14)、(15)、(16)、(17)、(18)、(19)、(39)
台湾で香港より重要視されている項目	(4)、(6)、(10)、(16)、(17)、(18)、(19)、(21)、(22)、(32)、(33)、(34)、(35)、(36)
大陸で台湾より重要視されている項目	(12)、(24)、(25)、(30)、(31)、(38)
大陸で香港より重要視されている項目	(4)、(6)、(10)、(18)、(21)、(25)、(31)、(32)、(33)、(34)、(35)、(36)
香港で台湾より重要視されている項目	(11)、(12)、(13)、(14)、(20)、(24)、(25)、(29)、(30)、(31)、(38)、(39)
香港で大陸より重要視されている項目	(8)、(11)、(13)、(14)、(15)、(20)、(29)、(37)、(38)、(39)

表4からさらにまとめると以下ようになる。まず、台湾の学生が大陸と香港の学生より重要視しているのは(16)、(17)、(18)、(19)という4項目である。また、大陸の学生が台湾と香港の学生より重要視しているのは(25)、(31)という2項目である。最後に、香港の学生が台湾と大陸の学生より重要視しているのは(11)、(13)、(14)、(20)、(29)、(37)、(38)、(39)という8項目である。

一方、3ヶ所の間であまり差がない項目は28項目で、全42問の66.7%を占めている。また、3ヶ所それぞれで重要視されている上位5位の項目をまとめると、表5となる。

表5 3ヶ所それぞれで重要視されている上位5位の項目（よい授業）

順位 / 地域	台湾	大陸	香港
1	(3)	(4)、(5)	(3)
2	(5)		(5)
3	(4)	(3)	(11)
4	(7)、(19)	(30)	(26)
5		(9)	(30)

表5で、3ヶ所それぞれで重要視されている上位の項目のうち66.7%が共通していることが分かる。いずれも教師に責任を求める部分が多いように思われる。

ちなみに、3ヶ所のいずれでも標準偏差が大きい（1.00以上）項目が見られた。標準偏差の数値が大きいということは、学生の意見が平均点から広範囲に分布していることを意味する。そのような項目を示すと表6の通りである。

表6 標準偏差が大きい項目（よい授業）

台湾	(23)、(28)、(37)、(42)
大陸	(20)、(23)、(27)、(28)、(42)
香港	(23)、(28)、(34)

3ヶ所で共通するのは(23)、(28)という2項目である。

4.2 大学生が考えるよい日本語の試験

台湾・大陸・香港の学生が考えるよい日本語の試験の項目の順番を示すと表7となる。

表7 大学生が日本語の試験で重要視する項目

[番号].質問	順位		
	台湾 (n=217)	中国大陸 (n=197)	香港 (n=190)
[1].聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、訳すことなど 多方面からの評価が可能である	9	1	2
[2].基準が一定しており、公平である	3	5	1
[3].テスト問題の字が明晰できれい、解答を書くスペースが 充分ある	9	10	18
[4].重要な部分が出題される	13	26	28
[5].レベル別のクラス編成	22	26	15
[6].学習者の実力、努力の成果が適切に反映される	6	10	8
[7].学習者に大きなプレッシャーをかけない	28	19	27
[8].学習者により成績をとらせたり、達成感を持たせたりする	33	31	32
[9].学習者の考えを知るため、学習者にもある程度問題を 作らせる	36	35	36
[10].学習者が楽に回答できるような、簡単な問題とする	35	34	34
[11].問題数が適当である	15	24	21
[12].問題の長さが適当である	19	23	15
[13].国際的に認められ、日本留学に役立つ内容の問題	26	15	5
[14].授業で扱った範囲内の問題とする	32	33	26
[15].出題の形式が正確である	16	17	19
[16].学習者のレベルが識別できる	18	7	14
[17].易しい質問も難しい質問もあるうえ、それぞれが占める 割合が適切である	4	2	11
[18].試験を通して何か身に付けられる	2	2	10
[19].説明が明白	1	4	8
[20].出題者の主観的な判断に基づく設問がない	9	17	5
[21].図などを用いた面白い問題	30	30	30

[22]. (生活によく用いられるなど) 実用的である	17	14	15
[23]. 簡潔であること	25	7	19
[24]. 授業中に教えなかった知識についても自然に身に付けられるような問題とする	24	28	31
[25]. 出題の形式が (過不足なく) 変化に富む	12	10	24
[26]. 筆記試験のみならず、口頭発表などの形式も取り入れる	27	32	33
[27]. 試験の後、詳しく解説してくれる	5	10	7
[28]. 学習者の専攻と無関係 (専攻にかかわる日本語に限定しない)	20	21	23
[29]. 試験の回数が適当である	21	21	24
[30]. 試験範囲が広すぎない	23	25	22
[31]. 試験の目的が明確である	14	16	13
[32]. 採点が、客観的根拠により行われる	7	6	4
[33]. 適切な例示がなされている	29	29	12
[34]. 他の箇所もしくは設問から正解が分かる等の不適切な問題がない	34	36	35
[35]. 解答時間が十分ある	8	7	2
[36]. 追加試験の機会が設けられている	31	20	28

4.2.1 台湾⇄大陸の比較

台湾の学生が大陸の学生より重要視しているのは[4]、[11]、[20]、[26]、[27]という5項目である。

一方、大陸の学生が台湾の学生より重要視しているのは[1]、[7]、[13]、[16]、[23]、[36]という6項目である。

大陸の学生は、4技能を全面的に見る、日本留学につながる、さらには国際的に認められる、というような、自分の日本語力を証明できる試験がよい試験だと思っているようだ。

残りの25問は台湾と大陸の間であまり差がない項目で、全36問の69.4%を占めている。

4.2.2 台湾⇄香港の比較

台湾の学生が香港の学生より重要視しているのは[3]、[4]、[11]、[17]、[18]、[19]、[24]、[25]、[26]という9項目である。

香港の学生が台湾の学生より重要視しているのは[1]、[5]、[13]、[14]、[23]、[33]、[35]という7項目である。

残りの20問は台湾と香港の間であまり差がない項目で、全36問の55.6%を占めている。

4.2.3 大陸⇄香港の比較

大陸の学生が香港の学生より重要視しているのは[3]、[7]、[16]、[17]、[18]、[23]、[25]、[36]という8項目である。

香港の学生が大陸の学生より重要視しているのは[5]、[12]、[13]、[14]、[20]、[33]、[35]という、客観的な条件が十分設けられている性質が帯びている7項目である。

残りの21問は大陸と香港の間であまり差がない項目で、全36問の58.3%を占めている。

4.2.4 台湾・大陸・香港3ヶ所の比較

前の3節（4・2・1～4・2・3）で2ヶ所ずつ検討した結果を表にすると、以下表8となる。

表8 重要視されている項目の2ヶ所ごとの比較（よい試験）

台湾で大陸より重要視されている項目	[4]、[11]、[20]、[26]、[27]
台湾で香港より重要視されている項目	[3]、[4]、[11]、[17]、[18]、[19]、[24]、[25]、[26]
大陸で台湾より重要視されている項目	[1]、[7]、[13]、[16]、[23]、[36]
大陸で香港より重要視されている項目	[3]、[7]、[16]、[17]、[18]、[23]、[25]、[36]
香港で台湾より重要視されている項目	[1]、[5]、[13]、[14]、[23]、[33]、[35]
香港で大陸より重要視されている項目	[5]、[12]、[13]、[14]、[20]、[33]、[35]

表8の内容をまとめると以下のようになる。まず、台湾の学生が大陸と香港の学生より重要視しているのは[4]、[11]、[26]という3項目である。また、大陸の学生が台湾と香港の学生より重要視しているのは[7]、[16]、[23]、[36]という4項目である。万が一の時に、「追加試験の機会が設けられている」ため、「学習者に大きなプレッシャーをかけない」ことになる、という側面が見えてくる。最後に、香港の学生が台湾と大陸の学生より重要視しているのは[5]、[13]、[14]、[33]、[35]という5項目である。なお、3ヶ所の間であまり差がない項目は24項目で、全36問の66.7%を占めている。

また、3ヶ所それぞれで重要視されている上位5位の項目は表9の通りである。

表9 3ヶ所それぞれで重要視されている上位5位の項目（よい試験）

順位 / 地域	台湾	大陸	香港
1	[19]	[1]	[2]
2	[18]	[17]、[18]	[1]、[35]
3	[2]		
4	[17]	[19]	[32]
5	[27]	[2]	[13]、[20]

なお、3ヶ所のいずれでも標準偏差が大きい（1.00 以上の）項目を示すと表 10 のようになっている。

表10 標準偏差が大きい項目（よい試験）

台湾	[10]、[34]
大陸	[4]、[8]、[9]、[10]、[14]、[34]
香港	[9]、[10]、[24]

3ヶ所に共通するのは[10]のみである。つまり、この項目に限り、台湾・大陸・香港のいずれにおいても学生の意見にばらつきが大きいということである。

4.3 大学生が考えるよい日本語の学習者

表 11 は台湾・大陸・香港の学生が考えるよい項目の順番を示すものである。

表 11 大学生がよい日本語の学習者として重要視する項目

<番号>.質問	順番		
	台湾 (n=217)	中国大陸 (n=197)	香港 (n=189)
<1>.真面目で勤勉で向上心がある	8	5	<u>2</u>
<2>.（抜群の記憶力、頭の回転が速い、自力で物事が考えられるなど）頭がよい	33	31	32
<3>.（自ら練習する機会を探し、多方面から日本語と触れ合おうとするなど）主動的で、積極的である	3	1	4
<4>.日本とかかわる物事に気を配る	5	6	8
<5>.話す機会を見逃さずに大きな声で日本語を話す	7	2	13
<6>.日本語に興味があり、日本語の勉強をエンjoyしている	<u>2</u>	7	<u>1</u>

漢字文化圏の日本語学科の大学生が考える
よい日本語の授業・試験および学習者の姿

<7>. (ノートを取り、居眠りをせず) よい態度で授業に臨む	23	20	<u>10</u>
※<8>. 日本のアニメや漫画などを見なくてもいい ⁴	<u>16</u>	32	<u>25</u>
<9>. 徹底的に復習をする	27	22	23
<10>. 分からないことがあれば必ず質問する	<u>12</u>	15	<u>6</u>
<11>. 自分の生活で実際に日本語を使ってみる	<u>1</u>	9	4
<12>. 日本語、さらには日本の物事を愛する	<u>28</u>	33	<u>22</u>
<13>. 日本語の発音に気を配る	8	3	7
<14>. テキストにない物事を自主的に学習する	14	11	16
<15>. 日本語の教師との接触の機会が多い	30	23	27
<16>. 実際に日本へ行ってみる	24	21	21
<17>. 日本語を聞く時間を多く設ける	4	4	3
<18>. 予習する	32	26	<u>25</u>
<19>. 日本で暮らしてみる	35	35	34
<20>. なるべく多くの単語を覚える	<u>19</u>	23	<u>16</u>
<21>. (日本のドラマを見て理解できるようにする、日本での生活を体験したりするなど) はっきりした目標を設ける	<u>13</u>	19	18
<22>. 系統的に日本語を学習する	16	18	20
<23>. 教材の目標や内容を理解している	22	28	23
<24>. 教師を尊敬し、教師とうまくインターアクションする	26	17	<u>11</u>
<25>. 時代遅れにならないようにする	34	34	35
<26>. 自信を持つ	<i>14</i>	8	28
<27>. 謙虚である	19	16	<u>11</u>
<28>. 授業に協力的である	25	26	30
<29>. 新しい知識を取り入れる	<u>5</u>	10	13
<30>. 試験の前だけでなく、常に自分の学習成果を検証する	11	14	13
<31>. 能動的に日本語能力試験を受け、自分の学習成果を検証する	29	29	31
<32>. 宿題を確実にしていく	21	25	19
<33>. 自分の不得意なところ分かっている	10	13	9
<34>. 常に辞書を持ち歩く	31	29	33
<35>. 時間管理が上手である	<i>16</i>	12	29

⁴ ※は逆転項目であることを示す。

4.3.1 台湾⇔大陸の比較

台湾の学生が大陸の学生より重要視しているのは<6>、<8>、<11>、<12>、<21>、<23>、<29>という7項目である。台湾人学生には、自分の専攻である日本語に興味や愛情を抱くことがよい学習者だと考える傾向があることが観察された。

大陸の学生が台湾の学生より重要視している項目も7つあり、それぞれ<5>、<9>、<13>、<15>、<18>、<24>、<26>となっており、大陸の学生の積極性が感じられる。

残りの21問は台湾と大陸の間であまり差がない項目で、全35問の60.0%を占めている。

4.3.2 台湾⇔香港の比較

台湾の学生が香港の学生より重要視しているのは<5>、<8>、<21>、<26>、<28>、<29>、<35>という7項目である。

香港の学生が台湾の学生より重要視しているのは<1>、<7>、<10>、<12>、<18>、<24>、<27>という7項目である。

残りの21問は台湾と香港の間であまり差がない項目で、全35問の60.0%を占めている。

4.3.3 大陸⇔香港の比較

大陸の学生が香港の学生より重要視しているのは<5>、<14>、<26>、<35>という4項目である。

香港の学生が大陸の学生より重要視しているのは<6>、<7>、<8>、<10>、<11>、<12>、<20>、<23>、<24>、<27>、<32>という11項目で、日本語を心から好きだという性質がある。

残りの20問は大陸と香港の間であまり差がない項目で、全35問の57.1%を占めている。

4.3.4 台湾・大陸・香港の比較

前の3節（4・3・1～4・3・3）で2ヶ所ずつ検討した結果を表にすると、以下表12となる。

表 12 重要視される項目の2ヶ所ごとの比較（よい学習者）

台湾で大陸より重要視されている項目	<6>、<8>、<11>、<12>、<21>、<23>、<29>
台湾で香港より重要視されている項目	<5>、<8>、<21>、<26>、<28>、<29>、<35>
大陸で台湾より重要視されている項目	<5>、<9>、<13>、<15>、<18>、<24>、<26>
大陸で香港より重要視されている項目	<5>、<14>、<26>、<35>
香港で台湾より重要視されている項目	<1>、<7>、<10>、<12>、<18>、<24>、<27>
香港で大陸より重要視されている項目	<6>、<7>、<8>、<10>、<11>、<12>、<20>、<23>、 <24>、<27>、<32>

表 12 からさらに以下のようにまとめられる。まず、台湾の学生が大陸と香港の学生より重要視しているのは<8>、<21>、<29>という3項目で、主動的な要素が強い。また、大陸の学生が台湾と香港の学生より重要視しているのは<5>、<26>という、自信に重きをおく2項目である。最後に、香港の学生が台湾と大陸の学生より重要視しているのは態度の面で特徴が見られる<7>、<10>、<12>、<24>、<27>という5項目である。なお、3ヶ所の間であまり差がない項目は25項目で、全35問の71.4%を占めている。

表 13 3ヶ所それぞれで重要視されている上位5位の項目（よい学習者）

順位 / 地域	台湾	大陸	香港
1	<11>	<3>	<6>
2	<6>	<5>	<1>
3	<3>	<13>	<17>
4	<17>	<17>	<3>、<11>
5	<4>、<29>	<1>	

表 13 で分かるように、<3>と<17>は3ヶ所のいずれにおいても上位5位に入っているのに対して、<4>は台湾のみ、<5>と<13>は大陸のみ、上位5位に入っている。

表 14 標準偏差が大きい項目（よい学習者）

台湾	<19>、<25>
大陸	<2>、<19>、<25>
香港	<19>、<25>

表 14 で分かるように、3ヶ所のいずれにおいても<19>、<25>の標準偏差が大きい。

4.4 まとめ

前掲表 4、8、12 を数量化すると、表 15 となる。

表 15 2ヶ所ずつの比較 (表 4、8、12 のまとめ)

		よい日本語の授業		よい日本語の試験		よい日本語の学習者	
		項目数	あまり差がない項目の比率(%)	項目数	あまり差がない項目の比率(%)	項目数	あまり差がない項目の比率(%)
台湾⇔大陸	台湾が大陸より重要視	9	64.3	5	69.4	7	60.0
	大陸が台湾より重要視	6		6		7	
台湾⇔香港	台湾が香港より重要視	14	38.1	9	55.6	7	60.0
	香港が台湾より重要視	12		7		7	
大陸⇔香港	大陸が香港より重要視	12	47.6	8	58.3	4	57.1
	香港が大陸より重要視	10		7		11	

表 15 でまず「よい日本語の授業」に関しては、「台湾⇔大陸」の一致性が 6 割強という比較的高い数値であるのに対して、「台湾⇔香港」との一致性については 4 割未満という低い数値が観察できた。また、「よい日本語の試験」に関しては、「台湾⇔大陸」の一致性が 7 割近くという高い数値を示している。「台湾⇔香港」、「大陸⇔香港」においてはいずれも 6 割未満となっている。最後に、「よい日本語の学習者」に関しては、「台湾⇔大陸」、「台湾⇔香港」はいずれも 6 割ちょうどの数値に達しており、「大陸⇔香港」も 6 割に近い。

また、台・陸・港の学生が重要視している順位があまり変わらない項目数およびパーセンテージを示すと、表 16 のようになる。

**表 16 台・陸・港の学生が重要視している順位が
あまり変わらない項目数およびパーセンテージ**

よい日本語の授業 (全 42 問)		よい日本語の試験 (全 36 問)		よい日本語の学習者 (全 35 問)	
項目数	%	項目数	%	項目数	%
28	66.7	24	66.7	25	71.4

台・陸・港の学生が重要視している順位があまり変わらない（順位の開きが5つ以内である）ものは、「よい日本語の授業」と「よい日本語の試験」で全体の7割近く、「よい日本語の学習者」では7割を超えている。

5. おわりに

今回の調査で、まず、台湾・中国大陸・香港の学生が授業、試験、学習者のそれぞれに関して重要視している項目の順位を検討した。また、台・陸・港の学生が重要視している程度があまり変わらない（順位の差が5つ以内である）項目は、「よい日本語の授業」と「よい日本語の試験」においてそれぞれ全体の66.7%であることと、「よい日本語の学習者」では71.4%を占めている、ということを示した。なお、日本語学科の学生にとっての「よい日本語の授業」、「よい日本語の試験」、「よい日本語の学習者」に関する地域間の違いも見出している。本研究の調査結果が、漢字文化圏の大学の日本語学科における日本語教育の参考になれば幸いである。

参考文献

- 王敏東（2012）「台湾の非日本語学科の大学生が望む日本語教師の姿—日本の調査との比較を兼ねて—」『台湾日語教育學報』19、pp196～223
- 王敏東（2013）「台湾の非日本語学科の大学生が考えるよい日本語の授業・試験および学習者の姿」『台湾日語教育學報』20、pp31～60
- 王敏東・吳致秀（2014）「台湾の日本語学科の学生が考えるよい日本語の授業・試験および学習者の姿—非日本語学科の学生との比較を通して—」『靜宜語文論叢』第七卷第二期、pp63～90
- 天満理恵（2010）「国内進学目的学習者の求める日本語教師と授業—出身国から見えてくるもの—」『言語と文化』4、pp27～37
- 中川良雄（2010 a）「中国の日本語学習者が考える「いい授業」」『京都外国語大学研究論叢』LXXV、pp143～157
- 中川良雄（2010 b）「中国・台湾・香港の日本語学習者が考える「いい授業」」『京都外国語大学研究論叢』LXXVI、pp231～240
- 中川良雄・天満理恵・上野山愛弥（2010）「教室文化の多様化と授業観：中国と韓国の就学生が考える「いい授業」」『日本語教育方法研究会誌』17（1）、pp10～11
- 中川良雄・天満理恵・上野山愛弥・安立友野（2011）「教室文化の多様化と「いい授業」観：オーストラリアと中国の大学生が考える「いい授業」」『日本語教育方法研究会誌』18（1）、pp66～67
- 縫部義憲（1994）『〔日本語授業学〕入門』瀝々社
- 村上祐・駒林邦男訳編（1993）「良い授業のための法則」『岩手大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀』3、pp257～263
- 八田昭平（1962）「授業分析の方法論的基礎：良い授業とは何か．学習教授過程の実践的構造論」『日本教育学会大會研究発表要項』21、pp159～161